

年間のイベント計画

- ☆森とのふれあい(体験林業) ☆  
◇5月18日(日) ◇斜里町町有林と知床五湖 ◇植樹体験と自然観察 ◇23名
- ☆森林レクリエーション・In 知床☆  
◇6月7日(土) ◇知床遠音別岳山麓 ◇森林浴と自然観察 ◇23名
- ☆森林レクリエーション・In 知床☆  
◇6月21日(土) ◇知床自然観察教育林 ◇森林浴と自然観察 ◇23名
- ☆森とのふれあい(体験林業) ☆  
◇7月4日(金) ◇知床国有林と知床五湖 ◇除伐作業と自然観察 ◇23名
- ☆森林レクリエーション・In 知床☆  
◇8月2日(土) ◇羅臼湖 ◇植物観察と湖沼めぐり◇23名
- ☆森林レクリエーション・In 知床☆  
◇8月20日(水) ◇知床硫黄山 ◇新噴火口登山と植物観察◇45名
- ☆森とのふれあい☆  
◇10月12日(日) ◇斜里町周辺国有林 ◇森の恵みと自然観察 ◇20名
- ☆森林レクリエーション・In 知床☆  
◇10月14日(火) ◇知床自然観察教育林 ◇森林浴と自然観察 ◇23名
- ☆森とのふれあい☆  
◇11月9日(日) ◇センターセミナー室 ◇講演と木工教室 ◇20名
- ☆森とのふれあい☆  
◇1月17日(土) ◇センターセミナー室 ◇母子の木工体験 ◇20名
- ☆森とのふれあい☆  
◇2月28日(土) ◇斜里町周辺国有林 ◇歩くスキーで自然観察◇30名
- ☆森林レクリエーション・In 知床☆  
◇3月13日(金) ◇知床遠音別岳山麓 ◇歩くスキーで動物観察◇23名

峰浜地区に山村游学のAさん母子が、春風の感じられる3月の終りに、予定の一年間を過ぎ東京へと帰って行った。

センターのイベントにも何度が参加していただいたり、“きのこ”を何種類か持込んで食用、食不適を尋ねられたりした。

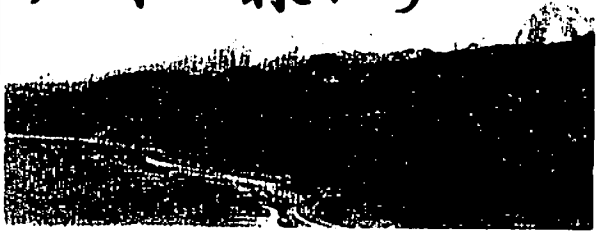
“きのこ”の食用、食不適の判定は難しく十分な対応ができなかった。毎年シーズンには何件か食中毒のニュースがあるので、確実な種類以外は食べられませんとは目わないことにしている。

Aさん母子が過した家の裏手には海別岳(うなべつだけ1,419m)がそびえているが、その山肌は白一色から日増しに白と黒のコントラストが鮮やかになってきた。

東京の小学校へと帰って行った“健太君”と“悠太君”は知床で過した一年間をどんな風に感じていたのだろうか。


“知床の森から”も今号から様式をA4版4ページに変えました。一般会計に移替になってから早くも一年が過ぎましたが、センター職員一同は新たな飛躍に視線を合わせています。(田村)

# 知床の森から



北見県支庁 099-41 北見市東区東町11番地  
知床森林センター 01622-3-3009 FAX 01622-3-3160

平成9年4月 第48号



せきれい

音解けの始まる早春に  
真っ先に訪れるスマ  
ートな渡り鳥。尾を上下  
させて町中や路上でよ  
く目にする里の鳥。

## 早春の知床ウオッチング

スキーをはいて自然を観察

第34回「森林レクリエーション・In知床～歩くスキー早春の知床ウオッチング」が、3月14日(金)行われました。

参加者は北見市と近隣市町村から23名参加し、男性10名女性13名の内訳で45才から70才の年齢構成となりました。

今回イベントのテーマは、スキーをはいて自然豊かな森に入り、早春の自然を感じ楽しんで頂くというものです。

コースは林間をはする旧道で、勾配も緩やかでスキーには最適です。コースに沿ってトドマツ・エゾマツ・アカエゾマツ・ミスナラオヒョウニシ・キハダ・ヤチダモなどの大木が身近に見れるのも知床ならではの。

また、ひっそりと水面をのぞかせる小沼、立木に刻まれたヒグマの爪痕、エゾマツ・トドマツの林木遠伝資源保存林、遠く望まれる黒々とした樹海、シナノキなどの凍裂現象、クマガラが彫った孔などを観察しま



エゾヒグマの爪痕の残るトドマツの前で

した。そしてオホーツク海の流氷原のパノラマが圧巻です。高い所からの眺めは一際良くみなさんは見とれておりました。

当日は純白の雪の森を進みながらいろいろと観察し、滑りかつ転びを交えてスキーも楽しみました。また天候にも恵まれ、全行程5kmあまりを笑い声を轟りませながら、全員元気でこのイベントを終えました。

# エゾシカによる樹木の食害

好む樹木はあるのか、最近はいチイの木が主体？

## 樹木の被害

北海道の一部を除きほぼ全道的に確認されるまでに至ったエゾシカだが、それに伴い最近では農業被害、林業被害、交通事故などの問題も取り上げられ、あまり好ましい存在になっていないようである。

前号では、知床半島におけるエゾシカの生息動向を紹介し、狩猟や有害駆除が行われない地区では生息数が増加傾向にあること、採餌場所での高茎草本の衰退、ササ丈低下、広葉樹の樹皮食いによる枯死といった植生変化が起きていることについて報告したので、今回はその中でも一般の方々がよく目にするものの多い、エゾシカによる樹木の食害について触れることにした。

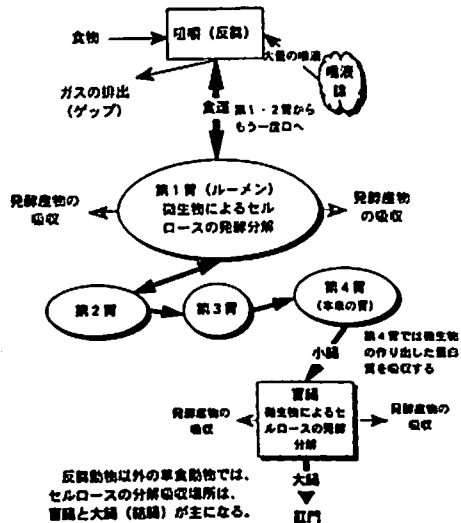
人間が一目見る限りでは、とてもおいしそうに見えない樹木の樹皮も、反すう動物であるエゾシカにとっては、樹皮に含まれる食物繊維（セルロース）を利用することで食料とすることができ、特に食料が不足する冬期には、彼らが生き抜くための貴重な食物源になっているのは事実である。

しかし、樹木は樹皮を剥がされると食害された箇所を再生することが出来ず、樹木自体が枯死してしまうこともあるので、林業にとっては深刻な問題となってくる。

では、エゾシカがどんな樹木でも食べるかとなるとそうではない。彼らが好む樹木形態がハッキリと分らないまでも、従来よく観察された食害樹木と言えば、オヒョウニシ、ハルニシ、キハダ、ノリウツギ、コクワツルなど比較的樹皮を剥がしやすい木が多かったように思われたが、昨年から何故かイチイの食害が目立ち始めた。

そこで、今回イチイの木に着目し、知床国有林内でイチイの木が豊富にある「イチイ林木遺伝資源保存林」で簡易的な調査を

図1 反すう動物における食物繊維（セルロース）の分解吸収



本表は知床博物館資料

行った。

## 林木遺伝資源保存林とは

林木遺伝資源保存林とは、主として林木の遺伝資源を自然生態系内に広範に保存することを目的として、林野庁が定めた国有林野独自の制度であり、保護林として指定されている内のひとつである。

保護林は学術的研究、貴重な動植物の保護、風致の維持等を目的に制定され、平成2年4月以降設定された森林生態系保護地域も保護林の中の一にあたる。

## 調査結果

調査区域は面積7.65haであり、同区域内の樹種別食害割合は、イチイ約7割以上、ニシ（オヒョウニシ・ハルニシ）約5割、ミスギ約3割の順で、その他樹木ではヤチダモ、イタヤカエデ、ホオノキ、クワノキ、シナノキ、カタスギがそれぞれ少本数と広葉樹主体の状況で、いずれも平成7年以降の食害実績にあった。まれにトドマツも確認された。

また、平均的な食害箇所プロット調査を行ったところ、イチイとニシに限り他の樹木には見られなかった実績として、直径階に関係なく食害されていること（イチイは50cm以上の木もある）、木の周囲が直径階に関係なく全周食害されているものがあること、食害の高さが1.6m以上に達している木があることがわかった。

このことから推測すると、当該地ではイチイとニシを好んで食べていることが伺える。

では、エゾシカが好む樹木はあるのか。



胸高直径60cmのイチイ食害

## エゾシカが好む樹木？

北海道林木育種協会発行の「北海道の林木育種協会」誌（第39巻、第2号）に「エゾシカによる樹木の食害（その嗜好性の一原因）」として、興味深い報告がされているので簡単に紹介したい。

内容は、過去における食害実績の報告からハルニシ、オヒョウニシ、シナノキに着目し物理的根拠に基づき分析している。

木材の細胞壁はセルロース、ヘミセルロース、リグニンの3大成分からなっており樹皮についても同じことが言える。反すう動物であるエゾシカはセルロースを栄養としているが、リグニンはセルロースを消化する際の障害となるため、その樹皮に含まれるリグニン量の多少が問題である。ハルニシ、オヒョウニシにはリグニンが特異的に少なく、セルロースを消化・吸収することができるのではないかとの内容である。

従って、エゾシカが強い嗜好性を示す樹種の原因として、それらの樹皮が剥がれやすいことも一因であろうが、その樹皮の厚壁細胞のリグニン量にも原因があるのではないかと思われると考察されている。

## 今後も調査を

食害の原因はいろいろ考えられる。今まで食害されてきた樹木を見てきたがざりでは最近、広葉樹を主体にその樹種の幅も広がってきたように思う。それらはエゾシカの個体数、その年の気象条件、その土地での環境条件などによって大きく左右されるはずである。

しかし、嗜好と言う観点からすると同じ食べられている樹木でも、その程度割合が樹種によって明らかに違うことは、エゾシカにとって嗜好性はあるとその根拠はあるはずである。

物理的根拠については、専門的な調査機関の判断を待つこととしながらも、当センターとしては今回、イチイの被害が多かったことから、さらに被害状況の把握に努めていくこととしている。